

# 太宰

# ゆかりの地へ

津軽鉄道でローカル線の旅を楽しんだ後、金木駅で下車すれば、そこはもう文豪・太宰治の故郷。街の中を歩いてみれば、そこかしこに太宰が暮らした時代の名残を見つけることができます。深いゆかりのあるスポットをめぐりながら、幼少期の太宰、津島修治少年の面影にふれてみませんか。

## 3 喫茶店「駅舎」

【音野公園駅旧駅舎】

かつて津軽鉄道音野公園駅の駅舎であった建物で、現在は、レトロな喫茶店として利用。小説「津軽」の中で、金木町長が上野駅の駅員に30分も調べさせ、とうとう音野公園の切符をせしめたことが書かれています。太宰が通ったという、弘前市土手町の珈琲屋「万茶」オリジナルブレンドコーヒーや、金木特産の馬肉を使った「馬まん」を味わうことができます。



●TEL.0173-52-3398  
●営業時間/10:30~16:30  
●定休日/12月29日

## 2 太宰治 思い出広場



太宰の作品名プレートが壁に埋め込まれた休憩スペース。金木を訪れた太宰ファンが、この道を通って「斜陽館」や「太宰治文学碑」へ行く途中のささやかな休憩所として、平成10年3月、太宰の長女・津島園子氏と太宰会の協力によって建てられました。

## 1 太宰治記念館「斜陽館」

明治40（1907）年、太宰の父・津島源右衛門によって建てられた、青森ヒバを使用した入母屋造りの豪邸。太宰は旧制青森中学へ進むまでこの邸宅で過ごし、また、米蔵を利用した資料展示室には、直筆原稿や書簡などが展示され、ビデオ作品も上映。幼少期の太宰に出逢える貴重な場所となっています。

●TEL.0173-53-2020  
●開館時間/5~10月:8:30~18:00(最終入館17:30)、11~4月:9:00~17:00(最終入館16:30)  
●休館日/12月29日  
●入館料/一般500円、高・大学生300円、小・中学生200円



## 津軽鉄道「金木駅」

日本の原風景を思わせる田園地帯を走るローカル線。到着駅「金木駅前」では、津軽三味線の音色が響きます。

## 4 音野公園

【太宰治文学碑・太宰治像】

音野湖を含む約130ヘクタールの自然公園で、太宰が幼少時や疎開時代によく訪れた場所。園内にはヴェルレーヌの詩の一節が刻まれた太宰治文学碑と、彫刻家・中村晋也氏によるマントを羽織る太宰の銅像が設置されています。



●入園料/無料

## 5 組合立 明治高等小学校跡碑

金木・嘉瀬・喜良市・武田の4カ村組合により設立された学校で、大正11（1922）年、太宰が尋常小学校を卒業後、地域実力者の息子として成績優秀だった太宰の学力補充のために通われました。ここで2年間学び、その後旧制青森中学へと進学します。



## 6 南臺寺

【なんだいじ】

太宰の生家。津島家代々の菩提寺。戦時中にアメリカ軍の直撃爆弾を受けたが、幸運にも被害が少なくて済み、津島家寄贈の鐘楼が今に残されています。幼い津島修治少年は、よくこのお寺へお参りに足を運んだそうです。



●拝観料/無料

## 7 雲祥寺

【うんさうじ】

太宰が子守のタケによく連れられてきた寺で、地獄絵と一緒に見たり、幼い子ども供養になると言われている。後生車を廻したりして過ごしたそうです。



●拝観料/無料

## 8 太宰治疎開の家「旧津島家新座敷」

作家となつてからの太宰が暮らした居宅としては唯一現存する貴重な邸宅。太宰の兄・文治夫婦の新居として建てられた津島家の離れで、戦火を逃れるために疎開した太宰治が家族とともに暮らした家。太宰はこの家で「パンドラの匣」や「親友交歓」「トカントン」など、数々の作品を執筆しました。

●TEL.0173-52-3063 ●開館時間9:00~17:00  
●休館日/不定休 ●入館料/案内料500円



## 太宰治疎開の家「旧津島家新座敷」

（公立金木病院駐車場中央付近）  
太宰は就学前から文字が読めたため、5歳頃からこの小学校に通っていたそうです。当時、小学校教師の三上やまが、津島家の向かいにあった金木銀行の一室を間借。叔母のきよと親しく、そのついで通学の許可を取り付けることができました。



## 9 金木尋常小学校跡

（公立金木病院駐車場中央付近）  
太宰は就学前から文字が読めたため、5歳頃からこの小学校に通っていたそうです。当時、小学校教師の三上やまが、津島家の向かいにあった金木銀行の一室を間借。叔母のきよと親しく、そのついで通学の許可を取り付けることができました。

